

Ashikaga
Museum of Art
30th anniversary

足利市立

美術館

30

周年

同美術館は、平成6年4月に開館し、今年で30周年を迎えます。

美術に関する市民の知識と教養の向上を図るとともに、文化の薫り高いまちづくりと文化の振興に寄与するために設置し、30年間多くの企画展や関連事業を行い、市民の皆さまにもご参加いただきました。

今年30周年を迎え、これまでの美術館の歩みと、美術館で働く専門家『学芸員』がお薦めする『いち推し』の作品をご紹介します。

市立美術館

☎ ④3 3 1 3 1



平成24年
2012
1/7 - 2/12

足利市制90周年記念事業
没後20年 足利が生んだ心の詩人
相田みつを特別展

市制90周年記念展



平成6年
1994
4/2 - 5/29

開館記念特別展
印象派とフランス近代絵画
の系譜

オープニング展覧会

// 30年のあゆみ //

開館

1994

入館者数11,000人越え



平成25年
2013
9/7 - 10/27

ノート、夢のしるし—
石田徹也展

友好都市交流の象徴的展覧会



平成9年
1997
1/25 - 3/2

孔子、孟子の故郷
済寧市文物展

私たちが30年、ともに歩んできました。

足利市立美術館 友の会

美術館開館と同時に設立された『友の会』も30周年。
今年さまざまな記念事業を開催します。

足利市立美術館友の会とは…

美術に興味のある方々が集まり、展覧会やイベントを通じて
教養、親睦を深め、美術館の事業を支援する目的の組織。

会員
募集中

市立美術館内事務局・☎43 3131

詳細は美術館ホームページへ



30周年記念事業

記念特別コンサート

日程：4月27日(土)

出演：松藤量平さん、堀 優衣さん

記念特別美術館ツアー

日程：10月23日(水)～24日(木)

行先：足立美術館、出雲大社

記念式典・祝賀会

日程：11月15日(金)

記念誌『未来へ』の発行

令和4年
2022
2/11 - 3/27



足利市制100周年記念特別展
戦国武将 足利長尾の武と美
—その命脈は永遠に—

刀剣 山姥切国広の展示

平成29年
2017
4/8 - 5/28



ブラチスラヴァ
世界絵本原画展
絵本の50年 これまでとこれから

絵本原画企画展を随時開催

平成26年
2014
10/18 - 12/23



スサノヲの到来
—いのち、いかり、いのり—

江戸学芸員思い出の企画展

2024

今年の企画展予定

コレクション展2024

Part I 南画

Part II 前衛のかなたへ

生誕100年

相田みつを展

—いのちを見つめることば—

ザ・キャビンカンパニー

大繪本美術展

童堂賛歌

飯田善國展

to the future…

足利を代表する現代作家

平成30年
2018
9/15 - 11/14



長重之展
—渡良瀬橋、福猿橋の土手—

ローマ日本文化会館で開催

平成28年
2016
10/22 - 12/25



VIVID 銘仙
煌めきのモダンきもの

わたしのいち推し作品

美術館の『学芸員』は、資料を収集、保管、展示、調査研究などを担う専門家です。そんな作品への愛があふれている市立美術館学芸員の“推し”の作品をご紹介します。

開館から話題の企画展を多数開催。数々の賞を受賞。

市立美術館最古参学芸員。

Q この30年の歴史で思い出深い企画展は？

A いろいろありますが『スサノヲの到来』展です。

縄文時代から現代まで5000年を『スサノヲ』をキーワードに見渡す展覧会でした。この極東の島国の根幹にある『通奏低音』(物事の底流にあつて、目立たないが途切れることなく影響を与え続けているもの)のようなものを捉えようと徒手空拳(何かを始める時、身一つで何も頼むものがないこと)で挑みました。

江尻 学芸員



いち推し まきしまによきゆう ぎよらんかんのんぞう
牧島如鳩 《魚籃観音像》

1962年 油彩・キャンバス (公財)足利市民文化財団蔵

小名浜漁業組合の理事長室の壁に打ち付けられ、門外不出の状態でしたが、縁あつて足利市民文化財団により購入されました。そのままだったら東日本大震災で失われていたかもしれません。改めて作品の運命を感じました。

頼れる学芸員。
現代美術のことならこの人。

篠原 学芸員

いち推し きのした すすむ
木下 晋

《103年の闘争Ⅲ》

2003年 鉛筆・紙
足利市立美術館蔵(友の会寄贈)



木下晋は、過酷な運命を生きた人々をモチーフにした作品を、22段階の鉛筆を駆使したモノクロームのみで制作してきました。この作品は『最後の瞽女』(三味線を弾き、唄を歌うなどして米や金銭を得た盲目の女性)といわれた小林ハルを描いたシリーズの内の一点です。

いち推し おおやまるぎゅう とっこつ
大山魯牛 《突兀》 1960年代初頭 紙本着色
足利市立美術館蔵

手呂内 学芸員

専門は日本近代美術
市立美術館の学芸員になって
初の企画展を4月に開催



足利出身の魯牛は、伝統的な南画を描いていましたが、ある日の抽象画との出会いにより、この作品が生まれました。性格の異なる『南画』(中国の文人が描いた山水画から影響を受け、江戸後期に日本で生まれた伝統的な絵画)と『抽象』(1910年代に西洋で生まれた、具体的な対象を表さずに行う表現方法)が見事に調和しています。

4月20日(土)から美術館で展示!詳細は27ページへ